

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	30 / 2011 / 1
タイトル	「会報」と「部誌」、ともに30号!
著 者 名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

緒言 「会報」と「部誌」、ともに30号！

編集 部

巷間、よく云われる言葉に“3号雑誌”というのがある。いや、今ではそんなに聞かれないのかも知れないが、会報とか同人誌などをつくるとき、初めは張り切って情熱のすべてをそれに打ち込むが息切れしてしまい、3回ほど発行して途切れてしまうのである。ところが本誌「やぶなべ会報」も部誌「やぶなべ」も大違いであった。部誌の方は極言すれば“受験勉強→生物部活動休止”という社会現象が主因で1987(昭和62)年の30号で“休刊状態”(そうしたい)になったが、会報は尻上がりに発行のピッチをあげて本号で30号の記念すべき大台に乗った。会員諸氏のこれを支えようとする熱いご理解に心からお礼を申し上げたい。

とはいうものの、会報発行の歩みにも曲折はあった。その誕生を見ると、「やぶなべ会」20周年を記念して、部誌は在校生中心だったのに対し、在校生・OBの絆を深めながら会全体を引っ張っていこうと創刊された。1969(昭和44)年2月のことで、したがってこの30号まで42年間の歳月を要したことになる。

「やぶなべ会報 創刊号～30号」統合版の構想

42年は、このせわしい世の中では大昔の感がある。創刊号はガリ版印刷の質素なもので、それがやがてタイプ印刷、活字印刷と変わっていった。内容面では「郷土の小動物展」とか「せせらぎウォッチング」などと自然環境が変貌し始めた頃は、市民を啓蒙しようとする意図がありありと見える。各号からその時代を反映した率直な情報が見えてくるのである。これらをいとも簡単に取り出し読むことができるようにするのが「創刊号～30号」統合版である。世がIT時代になったからできることで、間もなく完成させる予定である。

「部誌 やぶなべ 創刊号～30号」統合版も！

このことについては、会報26号の緒言「『やぶなべ』のアーカイブ構想」で詳しく触れているが、「やぶなべ」を一言で表現すれば、「青森高校生物部は1950年代から30年余にわたって、のべ800名以上の執筆者によりその活動成果を機関誌『やぶなべ』に記録、総頁数は約2300頁。」というものである。

アーカイブ化は2009年度総会の総意を得て、第一段階として全30冊のデジタル化を着々と進め、会報CD-R版の1回発行分に部誌6冊ほどを同梱しよう、そうすれば会報26号から30号の5回のCD-R版発行で30冊分を完成できるだろう、という計画であった。編集部としては「やぶなべ会」の62年間に積み重ねてきた、この郷土の自然誌資料を散逸させることなく、会員はもとより広く多くの団体・個人に利活用して貰えるようにと、緊急度の高い事業として位置づけて実行してきた。それが遂に、本号CD-R版同梱で全てのデジタル化を終えることができた。

「会報」と「部誌」を1枚のDVDに一体化させよう、必要なタイトルが探しやすいうように総目次もつけよう。

なお、デジタル化作業の経過とか、複雑な作業を強いられたスキャンニングから画質補正について、中心になって当たった石郷岡幹事が詳細(33頁)をまとめているので一読をお願いします。